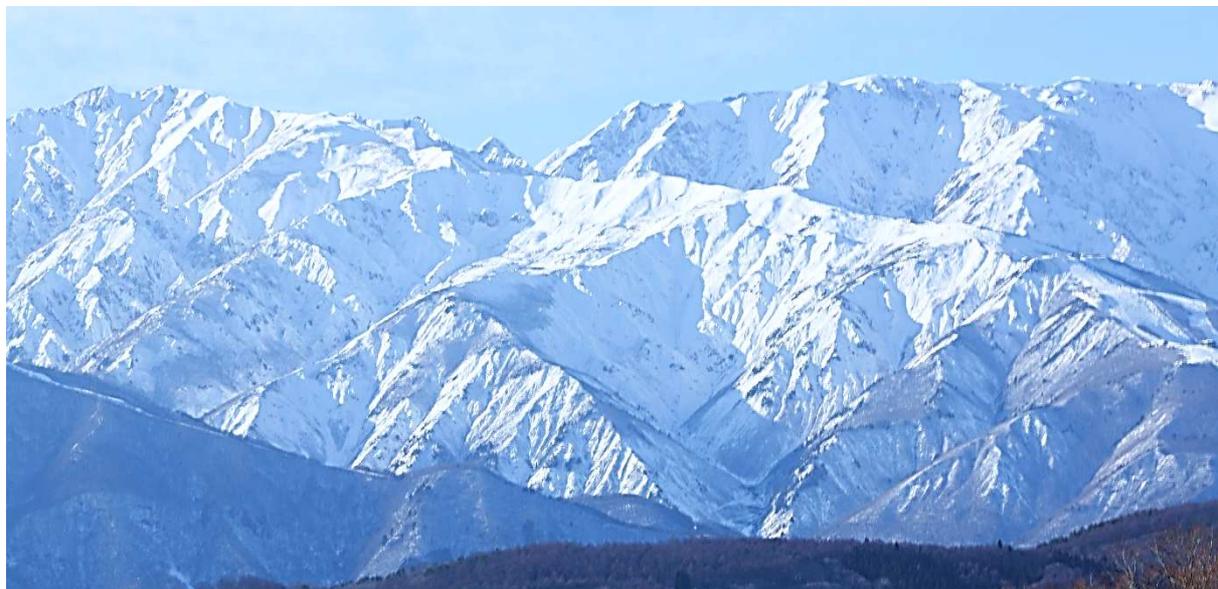




白馬村・小谷村では、「ふきのとう」を  
方言で『ちゃんめろ』と言います

発行：長野県姫川砂防事務所（北安曇郡小谷村千国乙10307-3/電話 0261-82-3100  
HP <https://www.pref.nagano.lg.jp/himesabo/>）



## 新春を迎えて



新年明けましておめでとうございます。

皆様には、健やかに新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。  
また、日頃より事業の推進にご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

昨年は、台風19号をはじめとする豪雨等により、日本各地で大きな災害が発生しました。長野県でも、千曲川が決壊・氾濫するという甚大な災害となりました。

この台風により、小谷村の新潟県境付近では300mmを超える降雨を観測し、中谷川沿いの中土中谷東のヒノミコ沢で10月13日(日)7時頃、土石流が発生し、民家2戸が被害を受け、あと僅かで県道まで達するところでした。幸い、この沢には2基の堰堤が設置されていたため、民家の倒壊と県道の被災は免れました。

私が当事務所へ勤務して驚いたことは、当所が地域の皆様から「砂防さん」と親しみを込めて呼ばれ、とても大切にいただいていることです。当所は開設以来77年が経過し、この間に白馬、小谷地域へ460基を超える砂防堰堤を建設してきました。その施設が今回の豪雨でも効果を発揮して、土石流の発生防止や被害を最小限化させたことが、当所が「砂防さん」と呼んでいただける所以なんだと、やっと理解できたような気がします。

今後は、さらなる土砂災害の激甚化、頻発化が想定されています。『施設の能力には限界があり、施設では防ぎきれない大災害は必ず発生する』ことを前提に、『自らの命は、自らが守る』、『地域内での避難の声掛けや安全の確認』により、少なくとも『命は守れる』ことが重要です。このためには、地域の皆様への防災教育の実施・支援や避難行動のきっかけとなるリアルタイムな情報の提供が必要不可欠です。当所では、住民自らがリスクを察知し、主体的な避難により『命は守れる』ことを目標に、今後も一生懸命取り組んでまいります。

本年が穏やかで明るい年となりますようご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

長野県姫川砂防事務所長 村山 幸男

## 砂防技術者継続学習支援プログラムを開催しました

土砂災害に対し、迅速、的確に現場対応ができる砂防技術者の育成、継承のため、学習支援プログラムを開催しました。

この取組は、平成28年度から3砂防事務所が主体となり行っているもので、本年度は、姫川砂防事務所が開催しています。今回は、各事務所から13名が参加し、8月と10月の2回、室内研修と実地演習を行いました。

第1回目は、当事務所の村山所長による「フォッサマグナと糸魚川静岡構造線」についての講演、国土防災技術(株) 山田氏による「地すべり災害について」の室内研修と地表踏査演習、日本総合建設(株) 小野氏による「失敗から学ぶ」と題した講演を行いました。



村山所長の講演



地すべり 地表踏査演習

第2回目は、(株)みずず総合コンサルタントの高藤氏による「DEM（数値標高モデル）について」の講演、(株)今井工務店の協力によるドローン操作演習を行いました。

演習では、数年前に配備された大型ドローンと最新のドローンとの大きさの違いや操作のしやすさを体感しました。

今回の学習支援プログラムが、少しでも受講者の災害対応の手助けになれば幸いです。

また、講演、演習を快く引き受けていただいた講師の皆様、本当にありがとうございました。



ドローン操作実地演習



ドローンから撮影

## 小谷村文化祭に砂防展を出展しました

10月26日(土)・27日(日)に、第62回小谷村文化祭が小谷村役場で開催され、姫川砂防事務所では砂防展を出展しました。今年は、「令和元年台風19号による土砂災害」、「砂防カードラリー」、「地区防災マップと土砂災害警戒区域」、「小谷村・白馬村の砂防施設」等のパネル展示と、平成28年度に配備されたドローン(実物)の展示及びドローン操作のシミュレーション体験を行いました。特に、ドローン操作のシミュレーション体験は、親子連れなど多くの方に体験していただき、とても好評でした。



ドローンと操作シミュレーション体験



展示状況

## 小谷村中谷地区の防災教育で「赤牛先生(\*)」が講演を行いました

小谷村中谷地区で、11月16日(土)に自主防災訓練が行われました。中谷地区は、平成26年11月に発生した神城断層地震で大きな被害を受けたことから、災害の継承と地域防災のあり方を再認識するため、毎年、避難訓練、防災教育等を行っています。

姫川砂防事務所では、NPO法人長野県砂防ボランティア協会 清水貞良氏に防災教育の講師を依頼し、H7.7豪雨災害や神城断層地震などの経験を踏まえた「土砂災害から、自分の命は自分で守る」と題した講演を行っていただきました。

\* 長野県では、地域防災力の向上を図り、土砂災害・水害を「我が事として捉える防災意識」の熟成を目的として、防災教育を実施する公民館等に、砂防ボランティアの皆さんを「赤牛先生」として無料で派遣する事業を行っています。「赤牛先生」派遣の依頼がある場合は、姫川砂防事務所までご連絡ください。



NPO法人長野県砂防ボランティア協会  
清水氏の講演



防災教育の状況

## 雪崩予防柵の工場検査を実施しました

新潟県北蒲原郡聖籠町に所在する落石・崩壊土砂・雪崩等の各種災害対策製品の製造工場において、当所発注の雪崩対策工事で使用する雪崩予防柵材料の検査を行い、不備等がないことを確認しました。



工場検査の様子

今回検査した雪崩予防柵は、白馬村飯田地区にて施工している雪崩対策工事で設置します。

本工事では、同工場で製作された雪崩予防柵の材料を白馬村に運搬し、現地で組み立てて設置しています。雪崩予防柵の支柱の高さは約5.3mで、支柱間隔は約4.5mです。

工場での製作が概ね完了したため、雪が解ける5月下旬頃から現地で作業を行う予定です。



雪崩予防柵設置状況

## 雪囲いを設置しました

北アルプスの山並みがすっかり白くなった11月15日(金)に、事務所・宿舎の雪囲いと公用車のタイヤ交換を行いました。この日は穏やかな晴天で、予定どおり作業を終えることができました。毎年恒例の、この時期の年中行事を終え、間もなく到来する本格的な冬に向け、少しずつ備えは進みますが、この事務所で初めての冬を迎える心の準備はこれからです。

果たして今年の冬は、寒いのでしょうか？皆様、風邪などひかれませぬよう、お気を付けてください。

